

UDCBK 令和3(2021)年度実施予定事業(案)

UDCBK は平成 30(2018)年にミッションを整理し、「UDCBK は、草津のまちづくりの推進のために、産・学・公・民が多様な価値観、個性、創造性を基礎とした知見を持ち寄り、専門家の先導的助言を得て、互いの良さを活かしつつ、長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、必要な社会実験を行い、そのための学習と情報発信を行う」とし、各年度の事業計画を立ててきた。

令和 2(2020)年度、10 年後の南草津エリアの将来像・目標・基本方針を示す「南草津エリアまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)」を策定するための検討を産学公民連携のプラットフォームである UDCBK で進められた。策定は令和 3 年度になるが、このビジョンの方向性と UDCBK のミッションを見据えながら、令和 3 年度の事業計画を策定する。

1. 事業プロジェクト**(1) 都市デザイン連携プロジェクト****① みなくさビジョンを具体化する取組**

草津市における将来の人口減少局面を視野に入れ、南草津エリアの魅力をより一層高める令和 12(2030)年度を目標年度としたまちづくり推進ビジョン(みなくさビジョン)を策定するために令和 2 年度に南草津エリアまちづくり推進懇話会を開催し、現在、策定へ向けた協議が進められている。

当懇話会では、南草津エリアの課題を分析したうえで、みなくさビジョンに掲げる南草津エリアの将来像を「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『みなくさ』」とおき、基本方針として、①大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進(活力)、②豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進(住環境)、③JR 南草津駅周辺やびわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進(交流)の3つの柱を掲げ各種施策を打つこととしている。

みなくさビジョン策定を見込みアーバンデザイン事業としてふさわしい取組を社会実験準備事業等の枠組みも活用しつつ、大学や都市計画部とも連携しながら具体化に取り組むこととする。

② 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

南草津駅に隣接した南草津ブリムタウンで計画されている1号公園について、居住する住民の要望や意見をワークショップなどの参加型の取組で反映し、かつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを令和元年度から社会実験準備事業として取り組んできた。令和 2 年度はコロナ禍によりかなりの制約を受けたが、第1工区町内会設立委員会に連携協力いただくなどの前進があった。

この1号公園を市民の手で作るプロジェクトは、3年目に入り公園の具体的デザインや活用を考える段階に至っており、1号公園を日常的に利用することとなる住民と土地地区画整理組合、都市再生課と連携した取組として継続し、この経験の蓄積の活用を含めた今後の公園づくりにつなげる。

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅西口の東山道記念公園の利活用について、令和元年度から取り組んでいる「みなくさまちライブラリー」を活用した市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出の取組を進める。

また学生が授業で製作した都市建築デザイン作品の UDCBK での展示を継続して行い、多様な視点からのまちづくりを考える。

(2) 都市と交通プロジェクト

本プロジェクトは、令和元年度、立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBK で都市と交通シナリオスタディ研究会としてスタートし、初年度は準備的な議論を進め、令和2年度は、専門家のレクチャーや市民参加のワークショップなどを通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構想する取組を進め、令和2年度事業報告にあるように3つのシナリオの提案にまとめるなど貴重な成果をあげることができた。

令和3年度は、都市と交通プロジェクトを継続させ、「みなくさビジョン」の策定状況を踏まえ、20年後の南草津のイメージ像をさらに深め共有する学習・研究を継続して進める。

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約 7,000 名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。そのための空間的仕掛けを創造していく取組を進めることは産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとって重要な課題である。

令和2年度は大学のキャンパス閉鎖やオンライン授業へのシフトなどで学生生活が影響を受け十分な取組ができなかったが、令和3年度は大学との連携を深めながら課題を共有し、共同の取り組みを進める。

2. 学習事業

学習事業は、オンラインでの開講・受講と UDCBK での視聴を基本として運営する。

(1) アーバンデザインスクール(前期後期各 5 回)

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

(2) アーバンデザインセミナー(年間 15 回程度)

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。また、その中で事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題を取り上げ、多様な層の問題や関心に応える内容を目指す。

3. 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する 7 大学を対象に UDCBK の提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

令和 3 年度については、前年度までの枠組みを踏襲した運用をはかりつつも、募集テーマをより事業計画を補強ないし推進する内容となるよう見直す。事業委託者については 11 月頃に進捗状況の報告、事業終了後は市民への成果還元のために、成果報告会および成果報告書の Web 公開をお願いする。

なお、採択件数は A 区分 B 区分あわせて 5 件程度とする。

＊募集要項配布:4 月 13 日

＊募集締め切り:4 月 28 日

＊結果通知・見積依頼:5 月末頃

＊委託期間:契約日から令和 4 年 2 月 26 日

4. オープンスペース

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、数回の閉鎖を余儀なくされ、また再開後も 3 密回避の措置をとっていることからスペースが制限され、従来の交流、学習、協議が著しく影響を受けている。またセミナーやスクールがオンライン形式にシフトするなどから利用についても変化が起きており、本事業のあり方を見直しが必要になってきている。

“まちの広場”としてのオープンスペースを当面維持しつつも、全国の事例も参照しながら今後の在り方の検討を進める。

5. 情報発信

UDCBK の活動を発信し、市民的理解を得ることは重要であり、令和 2 年度、報告中心のコンテンツを一定整理したが、UDCBK の基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視した内容の改善を行うことが課題である。

公式アカウントを持つ Facebook での発信の充実を図るとともに、草津市やまちづくり協議会などの LINE や Facebook での情報発信、南草津駅デジタルサイネージや立命館大学教職員向けの掲示板なども連携・活用させていただき、関係者の協力を得ながら情報発信に努める。

6. 法人化検討

平成 30 年に UDCBK 法人化検討委員会の答申を受け、UDCBK のミッションを明確にして各種プロジェクトを立上げ事業を行ってきており、法人化ワーキング部会で整理したメリット・デメリットに事業を当てはめ、組織形態など検討を継続した。

令和 3 年度はさらに課題の整理を行いつつ検討を継続する。

7. その他

- (1) 新型コロナウイルス感染症により UDCBK のこれまでの事業展開が変化してきている。そのような状況の中で南草津エリアの 10 年から 20 年後の将来のイメージをつくる取り組みが前進し、この成果を今後どのようにまちづくりで具体化していくのかという新しい課題がある。after/with コロナの社会変化を注視しながら、UDCBK の今後の事業展開について、運営懇話会の意見も踏まえながら検討を深める。
- (2) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催する。
この間の活動の中で繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK の各事業に結びつける取組を強化する。
- (3) 全国の UDC の先進的な取組に学び、UDC ネットワークとの交流を深める。